

2015年4月6日

JFEエンジニアリング株式会社

津製作所様

日本共産党三重県委員会

沖縄・辺野古新基地建設に反対し、貴事業所が沖縄県民の意思、  
全国に広がるたたかいに寄り添う理性ある行動を求めます。

沖縄は第二次世界大戦末期、本土防衛の手段として日本政府によって捨石とされ、沖縄戦の悲惨な結果を余儀なくされました。戦後は本土と切り離され、長い間、アメリカの統治下におかれて島全体がアメリカ軍の基地化されました。現在も在日アメリカ軍基地の75%が沖縄に集中しています。沖縄では「オール沖縄」のたたかいとして、普天間基地の撤去と辺野古基地建設に反対するたたかいがくりひろげられています。

「琉球新報」2月1日付は、辺野古新基地建設に必要な護岸工事に使われるハイブリッド・ケーソン6基を三重県で建設し運ばれると報じました。また、「平和憲法を世界に広げるネットワーク三重」や沖縄の現地で基地建設反対運動の支援に関わっているみなさんの情報から、三重県内でこのようなケーソン建設技術を持つのはJFEエンジニアリング株式会社 津製作所以外に考えられない、と聞いています。

この護岸工事を通じて、米軍の「殴りこみ部隊」と言われる戦争推進の強襲揚陸艦をはじめ巨大艦船が接岸できる機能が新基地に備わることとなります。そうなれば政府の説明する「沖縄県民の負担軽減」どころか、まさしく基地の機能強化に三重県民や県内の事業所が手を貸すことになってしまいます。

政府は、沖縄県民のみなさんの反対にもかかわらず、昨年以來新基地建設工事のために巨大なコンクリートブロックを次々と投入し、貴重なサンゴ礁をはじめ環境破壊を強行しています。今回のケーソン設置の工事は環境破壊の面でもさらに強化することにつながります。

さらに沖縄県民の圧倒的意思を受けて当選した翁長雄志知事の工事承認取り消しの申請を政府が強権をもって踏みこみじろうとしています。新基地建設で沖縄を半永久的な基地の島としようとしていること、基地建設を政府が強権的なやり方ですすめようとしていることは、単に沖縄だけでなく日本の平和と民主主義が正面から問われる重大な事態です。

こうしたさなかに、三重県民や県内の事業所が基地建設に手を貸していくことを、私たちは絶対に手こまねいて見過ごすことはできません。「平和憲法を世界に広げるネットワーク三重」のみなさんの問い合わせに対し、貴事業所は何ら回答していません。もし貴事業所が基地建設のケーソンを製造していないのであれば、それを事実で証明し公表してください。JFEエンジニアリングのホームページで紹介されているように、東日本大震災で破壊された防波堤の修復工事のために釜石市へ送られた誇るべき技術を基地建設に使うことは貴事業所の歴史にとって汚点を残すことになると思います。もし、いま基地建設のためにケーソン建設をすすめているのであれば、沖縄の県民の思いに寄り添って、製造中止を含めて理性ある行動を求めるものです。日本共産党三重県委員会は、政府の新基地建設強行に断固抗議するとともに、中止を求め沖縄県民と固く連帯してたたかい抜くことを表明します。

以上